23 Community

ＮＨＫを監視・激励する視聴者コミュニティ

ｅメールお問い合わせ　http://p.tl/h76y
NHK★監激コム HP　http://p.tl/LocP
入会申し込みフォーム　http://p.tl/FCY1
↑ 年会費 1000 円です。↑ FAX 059-222-3165
「坂の上の雲」全国ネットワーク http://p.tl/KObN

NHK 新会長選出の混乱，小丸委員長辞任，松本新会長の見識は？ 会長選考と経営委員選考のあるべき姿の議論を！

昨年末ほぼ決定と報じられた NHK 新会長の選出は今年になって大混乱、ついには一からやり直しとなり、前会長の任期切れ寸前に松本新会長が決まり、同時に小丸経営委員長が辞任という異例の展開になりました。

私たちはかねてから会長選出の公開と透明化を、繰り返し要望してきましたが、今回も選出過程は不透明で不可解です。しかし公開された経営委員長記者会見（ブリーフィング）だけからも問題点がかいまみえます。

「醍醐聰のブログ」から→全文は http://bit.ly/ez9LR8

NHK 会長選の選考経過が多くの報道機関で伝えられた。それらを総合すると、小丸氏を表の軸にして経済界の人脈で人選が進んだことは間違いなさそうだ。中には、政治が介在したという報道もあった。松本正之氏を新しい会長に選んで人事は落着したが、残された教訓は大変重い。

経営委員の面識・人脈に頼った選考のいびつさが露見

経営委員長記者会見(1/15) 小丸委員長、安田代行、井原委員→http://bit.ly/su15nhk を読むと、候補者選考がいかにずさんなものであったかを垣間見ることができる。特に、安西氏に対し、小丸委員長が、経営委員全員の総意でもない段階で、あたかも全員一致の就任要請かのように伝えたことが混乱を招く原因であったことがわかる。

さらに、会長候補を人選するにあたっては、資料やネットで調べたと小丸氏は語っている。むろん、それも情報収集の一つの手段ではあるが、福地現会長が任期切れを前にして早い段階で続投の意思はないと表明したのであるから、なぜもっと早くから、委員会で人選の基準を協議し、候補者選考の準備に取り掛からなかったのか、会長の任期切れの１月 24 日に間に合うように松本氏を選んだというだけで、経営委員が拍手で安堵し合っていてよいのか―職責に対する自覚の希薄さを嘆かわしく思うとともに、悪しき身内意識を見せつけられる思いがした。

結局、今回の NHK 会長選考のどたばた劇は、放送メディアの長にふさわしい人物を選ぶ上で、12 人の経営委員の面識と人脈に頼る選考がいかにいびつで不条理なものかを露呈したといえる。こうした限界を乗り越えるには、選考の門戸を視聴者に広げ、多くの人々の英知を集約できる公募制の採用が不可欠である。さらにいえば、NHK 会長を選ぶ経営委員の選び方にまで遡及した議論が必要である。(2011/1/25)

「ＮＨＫを監視・激励する視聴者コミュニティ」は NHK 会長と NHK 経営委員会宛に申入れ書 **"経営委員長の解任を求め、ＮＨＫ新会長の資質を問います"** を提出しました。(2011/1/24)

NHK 経営委員会

＊＊

独善による失態続きの小丸成洋経営委員長の解任を求めます

私達は前ＮＨＫ経営委員長・古森重隆氏の独善的で専制的な委員会運営を批判し、その罷免を求める中で、経営委員会のあり方、経営委員長の資質を次のように求めました。（2008 年/12/18 http://bit.ly/i78BYm ）

第一に、NHK への外部からの干渉に対して、放送の自主自立を守る砦として経営委員会を機能させる高い見識と意欲の持ち主であること。

第二に、公共放送 NHK と民間営利企業との経営理念の違いについての明確な認識をもつ人物であること。

NHK は、多元的で多様な言論・情報が飛び交う文化・ジャーナリズムの「広場」としての役割を担っています。視聴者への還元は、受信料値下げのための無原則な効率化・コストダウンなどではなく、第一義的に「知る権利」に応える調査報道や文化的に良質で多様な番組活動の充実であるべきと考えています。

私達の要望を受け入れる形で、新経営委員会では、新経営委員長の選出に当たって、経営委員長に課する姿勢として、①合議制に基づく運営、②透明性のある運営、③視聴者への説明責任を果たす運営、が確認され、④執行部との緊張関係を維持しつつ良好な関係を保てること等が確認され公表されました。（平成 22 年 6 月、第 1121 回経営委員会議事録）http://bit.ly/hQwRy6

はたして今回の NHK 会長選出過程ではこうした確認事項が遵守されたのでしょうか。

伝えられるところによると、前記確認は守られず、委員からの複数の推薦候補を検討するという形が取られたとはいえ、実質的には小丸委員長の独断による「打診」が先行し、候補者の資質や能力について委員会で比較検討された事は一度もないといわれています。相変わらずの密室での委員長の独断的選考であった事が判ります。

その結果、経営委員の間から、内諾したとされる候補者が自らの交際費や住居など経済的処遇への関心が先立つ人物ではないかとの疑問や、公共放送を担う長としての資質に疑義が噴出し、受諾の撤回を求めるという醜態をさらけ出しました。

一体、小丸経営委員長は NHK 会長（候補）たる人物がどの様な資質を持つ人物だと考えて推薦したのでしょうか。なぜ「打診」をする前に委員会の中で候補者一人一人の資質を確認する作業、例えば候補者の所信表明などをしなかったのでしょうか。これでは実質的に罷免された古森前委員長と全く同じ手法です。

独善的に委員会内部で討議もせず、密室で強引に決めようとし、失敗した小丸委員長の責任は極めて重いものです。直ちに責任を取って辞任するか解任されるべきであると考えます。

公共放送の長たる NHK 新会長の資質を問います

1 月 15 日の経営委員会では、松本正之新会長が全員一致で決定したとたん、拍手がわき起こったとの報道があります。期限に追われ、たった数日で候補者を選び直し、その資質を問う事もなくどうして全員一致できるのでしょうか。松本氏は新会長の選出後の記者会見では、「公共機関である JR の経営と NHK の経営とは『公共』という点で同じであるから自ら責任をもって職責を果たす事ができる」と述べております。

NHK に求められている公共性とは、前述の如く多元的で多様な言論・情報が飛び交う文化・ジャーナリズムの「広場」を確保することにあります。第一義的に「知る権利」に応える調査報道や文化的に良質で多様な番組活動の充実であるべきです。国民の足を確保することを究極の使命とする JR とは全く異質、異次元な機関であります。早くも新会長の資質が問題として浮き彫りになりました。

NHK 会長や経営委員会が営利目的の企業経営と公共放送たる NHK 経営とを同列にあつかい、一部の経営委員が主張するように、民放の補完機能しか求めないとすれば、それは日本のジャーナリズムの死滅です。言論の自由を保障する日本国憲法にも抵触する由々しい事態です。私たちは NHK 新会長、経営委員会、経営委員長に対し、「NHK 会長には、どの様な資質と見識が求められるのか、NHK はどの様な機関であるべきか」を公開の場で討論し、広く国民の意見を集約する事を求めます。

最後に、昨年 11 月 22 日、当会が今回の会長選出に当たって経営委員会に提出した「要望書」に記したように、「経営委員会が公募した会長候補の中から会長を任命する公募制を採用すること」および、その上で、合わせて要望したように、「会長候補について、指名委員会で「候補者」が絞られたあと、経営委員会で即決しないこと（少なくとも 1 週間をおくこと）。およびその間に「候補者」に「ジャーナリズムと放送の文化的役割についておよび NHK 会長就任への抱負」等の所信を表明する機会を設けること」を今回の反省として、「余韻」がさめないうちに検討していただくよう重ねて要望します。以上 ■

●当会の 11/22 日提出要望書 http://bit.ly/gkmzPQ

NHK 経営委員長代行の底なしの無定見

全文は→http://bit.ly/e5EYPK

経営委員会に問われる見識
―委員長辞任で終わりではない―

1 月 25 日に開催された NHK 経営委員会で小丸成洋委員長は、今回の NHK 会長選任の過程で社会を「騒がせた」責任をとって委員長を辞任することを申し出、了承された。その後、小丸氏は経営委員も辞任する旨、総務省に申し出たとのことである。

この日の経営委員会では、当面、経営委員長は空席とし、委員長職務代行者（以下「委員長代行」）の安田喜憲氏（国際日本文化研究センター教授）がそのまま代行を続けることになったという。いずれ小丸氏を補充する委員が選任された折に後任の委員長が選出される模様である。（略）

委員長代行を務める安田氏の、今回の会長選考をめぐる言動を見ておきたい。

経営委員長記者会見(1/15) 小丸委員長、安田代行、井原委員→http://bit.ly/su15nhk

委員長代行の支離滅裂な会長推薦理由

この中で、記者から今回、松本正之氏を NHK 会長に選んだ具体的理由を問われて、安田氏は次のように答えている（下線は醍醐が追加）。

（安田代行） どうしてか、というのは、それぞれ委員によって違いますが、私が松本氏をふさわしいと思ったのは、これは福地会長も言っておられたが、ＮＨＫも鉄道も一瞬たりとも気の許せない仕事で、１秒でも気を許せば大事故に繋がります。放送も同じ。そうした同じような職種を体験されているということです。それから、日本のハイテク産業としての新幹線とＮＨＫの持っている技術力、これは、これからの放送と通信の融合の時代に、国際戦略として世界に打って出なければいけない極めて高い技術力であると私は考えています。今後、２１世紀の日本の世界への国威の発揚という意味においても、松本氏はたいへん大きな役割を果たしてくれるのではないか、と私は思いました。

鉄道であれ、空輸であれ、多数の人々と物資を運ぶ運輸事業は経済と生活の動脈であるとともに、乗客の生命をあずかる事業として、安全な運輸は生命線である。日本航空が起こした御巣鷹の大惨事や JR 西日本が起こした兵庫・尼崎での列車脱線・転覆事故は、「安全の前に

利益なし」の鉄則を私たちの記憶に刻み込んだ。最近、続発している JR 東日本のダイヤの混乱も多数の人々の職務と生活に甚大な影響をもたらした。この意味で運輸事業が安全で安定した運輸サービスを提供するという重大な公共性を担うことを否定する人は誰もいない。

他方、NHK はどうなのか？ NHK の事業に関して「１秒でも気を許せば大事故に繋がります」と言われて、意味を理解できるだろうか？ NHK が担う災害報道には緊急性、正確性が求められることは言うまでもない。しかし、NHK が 1 秒でも気を許すと、どんな大事故に繋がるのか―鉄道と NHK の公共性を結び付けるための牽強付会な言い回しには、放送メディアに通じた人物とは思えない松本氏を NHK 会長に選任した苦しい釈明の意図が透けてみえる。

また、日本のハイテク産業としての新幹線とＮＨＫの持っている技術力は、これからの放送と通信の融合の時代に、国際戦略として世界に打って出なければいけない極めて高い技術力という点で共通するという安田氏の発言はどうか。松本氏がリニア中央新幹線の構想づくりに貢献した人物という評価は受け入れるとしても、放送・通信の技術に通じた資質が NHK 会長に求められる資質につながるわけではない。 NHK 会長になによりも求められるのは、言論・報道機関、多様な放送文化を担う組織の長にふさわしい独立不羈(ふき)の知性である。この面での松本氏の資質を何ら語ることなく、技術面での鉄道と放送の共通性をこれまた、牽強付会に繋ごうとする安田氏の発言は支離滅裂といって過言でない。

国威発揚の役割を期待して NHK 会長を推薦した底なしの無定見

極め付きは、「２１世紀の日本の世界への国威の発揚」のために NHK 新会長が大きな役割を果たすよう期待して松本氏を選んだという安田氏の発言である。NHK およびその長たる NHK 会長は国威発揚のために奮闘することが職務というなら、NHK を国営放送と同列にみるに等しい。しかし、NHK は国威を発揚する機関でも国益に仕える機関でもなく、国家と緊張関係を保ちながら、国家の権力行使を監視し、時宜にかなった警鐘を鳴らす機関である。また、国威・国益の名のもとに一元化されがちな言論・文化の自由と多様性を保障する「広場」の役割を担うものである。

NHK 経営委員会が今回の会長選で露呈した醜態、無定見は、小丸氏の委員長辞任で幕引きできるものではない。その反省を示す一つの機会として、小丸氏の後任にどのような委員長を互選するのか、注視したい。

さらに、いえば、NHK 会長の選任という重責を担う経営委員会のメンバーを今のように、総務省の放送担当部署がリストアップした候補者を政府がそのまま国会に提出し、衆参院の同意人事で決める仕組みのままでよいのかを早急に再考する必要がある。「メディアによって監視されるはずの政府・行政（議員内閣制の下で両者は一体化）が、メディアを監督する組織のメンバーを実質的に選ぶ権限を持つという自己撞着を根本から改革しなければ、今回の NHK 会長選考で露見したような無定見な迷走が再発する恐れは多分にある。(2011/1/26)

参考：当会の 11/22 日要望書 http://bit.ly/gkmzPQ
開かれたＮＨＫをめざす全国連絡会、NHK 会長選で経営委に緊急の申し入れ→http://bit.ly/fGAmLf

「類は友を呼ぶ」の悪習を断ち切るべき～NHK 会長選考を振り返って～→http://bit.ly/gup22H ■

特集『大逆事件 100 年』に寄せて

『坂の上の雲』と大逆事件

寄稿：市民共同 弁護士 **中島 晃**
（『坂の上の雲』放送を考える全国ネット 呼びかけ人）

はじめに

”まことに小さな国が、開化期をむかえようとしている”

これは、司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の冒頭の書き出しであり、NHK のスペシャルドラマ「坂の上の雲」も、これをそのまま冒頭のナレーションに使っている。「坂の上の雲」は、簡単にいうと、「まことに小さな国」であった「明治の日本」が、秋山好古、真之の兄弟や正岡子規に代表される若者たちが、国の近代化という坂の上の白い雲をめざして、懸命に駆け上がって行き、日清戦争で中国に勝ち、日露戦争では大国ロシアを打ち破って、欧米列強の仲間入りをして、大国にのしあがっていくという物語である。

NHK の報道資料によると、「坂の上の雲」は、「国民ひとりひとりが少年のような希望をもって国の近代化に取り組み、そして存亡をかけて日露戦争を戦った『少年の国・明治』の物語」だというのである。

しかし、秋山兄弟や正岡子規だけが「明治の日本」を代表する若者たちではない。

日本が「富国強兵」のスローガンのもと、対外的な侵略戦争をおし進めることに反対して、反戦・非戦を訴えた幸徳秋水、内村鑑三などもまた、「明治の日本」を代表する若者たちであったことは間違いない。

しかし、「坂の上の雲」は、日露戦争を祖国防衛戦争として肯定的に描き出し、秋山兄弟たちをもって、明治の日本の若者たちを代表しているかのような、非常に一面的で誤った理解を、現代の私たちに植えつけようとしている。そこに、作者自身が懸念したように、ミニタリズムを鼓吹するという「坂の上の雲」のもっている危険性がある。

「大逆事件」と血にぬられた明治の歴史

しばしば、「坂の上の雲」は、暗い昭和と対比させて、明るい明治を描いたのだと言われる。しかし、これもまた極めて一面的であって、歴史を歪めるものと言わなけ

ればならない。

明治政府は、朝鮮の植民地化をめざして、ロシアと日露戦争をたたかい、これに勝利して、最終的には、1910（明治 43）年 8 月、韓国併合を強行し、朝鮮半島を日本の植民地として完全に支配することに踏み切った。

明治政府は、これに先立って、大逆事件をデッチ上げ、朝鮮の植民地化に反対した幸徳秋水をはじめ、500 人以上を逮捕拘束して、これに反対する国内世論を完全に封殺しようとしたのである。

したがって、大逆事件は、当時の国家権力が捏造した一大弾圧であり、権力犯罪にほかならない。

この事件は、1911（明治 44）年 1 月 18 日判決が下され、26 人全員が有罪とされた。結果は幸徳秋水以下 24 名が死刑であり、翌 19 日「天皇の恩命」により、うち半数が無期懲役に減刑された。そして、その 1 週間後に、秋水以下 12 名に死刑が執行された。

このように、明治政府は、対外的には植民地獲得のための侵略戦争をおし進める一方、国内的には、これに反対する社会主義者たちを徹底的に弾圧し、そのために「大逆事件」まで捏造したのである。

権力の暴圧に悲憤の涙を流し、無残に前途を断ち切られた幾多の明治の若者たちがいたことを忘れてはならない。このように明治は血にぬられた暗い歴史をもっており、それが治安維持法による思想弾圧と 15 年戦争に突入していく昭和の暗黒の歴史につながっていくことをきちんと見すえる必要がある。

そのことを象徴するのが、大審院検事として大逆事件のフレームアップをはかった平沼騏一郎であり、彼はその後、検事総長、大審院長、枢密院議長を経て、昭和 14 年には第一次近衛内閣の後をうけて首相となり、国民総動員体制を推進していったことである。

坂の上の向こうにあったのは、白く輝く雲ではなく、韓国併合と大逆事件にはじまる暗い深淵であったといわなければならない。

終わりに

昨年夏、韓国併合 100 年ということから、日本政府は、菅首相の談話を発表して、不十分ではあるが、朝鮮の植民地支配に対する謝罪を表明した。

しかし、大逆事件から 100 年が経過した今日に至るも、日本政府は、いまだにこの事件の犠牲者に対する公式の謝罪を行っておらず、名誉回復の措置もとっていない。とりわけ、権力犯罪に加担して、無実の人々に死刑判決を下し、戦後も再審の門をとざしてきた裁判所の責任は重大である。

大逆事件死刑判決から 100 年を迎えるにあたり、事件に連坐して、汚名を着せられたまま死んでいった犠牲者たちの復権と名誉回復を図ることは、現代に生きる私たちがはたすべき重要な課題であると考える。 ■

「大逆事件百年後の意味」を考える院内集会

から(参議院議員会館 2011/1/24)

＜寄せられたメッセージ＞

● 市ヶ谷刑場で露と消えて一〇〇年、今日も人の心の中に、脈々と生き続ける幸徳秋水の思想「主権在民、反戦平和、相互補助、人権、環境」。私たちは、「現代に生きる幸徳秋水」のこころざしを継いで地域から頑張ってまいります。

幸徳秋水を顕彰する会 会長 北澤保（高知県四万十市）

● 明治維新以降の日本の歴史を国定教科書を裏返しにした角度から洗い直し、見つめなおす。この作業を進めよう。このことによって、希望に満ちた人間集団の日本社会が実現されていきます。一緒にがんばっていきましょう。　むのたけじ（ジャーナリスト）

● 森近運平は正義・人道・平和・理想社会の実現のため、社会の貧困と不正義の一掃を願い、真実の農事改良を探求した実践者です。井原市（岡山県）の「郷土が生んだ偉人」として「森近運平を語る会」は彼の顕彰と名誉回復運動を続けて参ります。森近運平没後 100 年記念事業実行委員会　坂本忠次 森山誠一

● かって、精神的に高い志をもって生きていた人々がこの熊野の地に居た。そうして権力の犠牲になった。その証しを後生まで語り継ぐことによって、わたくしたち自身も勇気を振るい起こす糧と矜持にしてゆきたい。

「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会

会長 二河通夫（にこうみちお） 和歌山県新宮市

早野透さん（元朝日新聞編集委員）：

権力の裏側の取材ばかりを続けてきたが、最後にはちゃんとしたものを書きたいと思い、

＜ニッポン人脈記＞ ”大逆事件残照”で自らの信念と情熱を貫いた人々のことを書いた。http://bit.ly/gsarDF

●夢二は反戦画家だった ●安眠の地に寄り添って ●細民を愛して「宵待草」 ●許されざる者 非戦の秋水 ●心優しき「毒取る大石」（誠之助）●忘れぬ先覚者の血文字 ●悼み歌う 啄木が晶子が ●多喜二への手紙 白樺の宝 ●人の血をすうダニがおる（内山愚童）

●草の根から 世直しの旗 ●差別悔いた「路地」の僧 ●兄弟の幽魂 熊野の物語 ●牟婁新報 スガの「筆誅」 ●新しきもの 常に謀叛

大石誠之助は”大逆”ではなく部落解放や廃娼論など彼の優しさや非戦の思想がやられた。冤罪や司法改革だけ

の問題ではない。幸徳が堺利彦と興した平民社の設立宣言は平和主義や自由・平等の精神を掲げており、日本国憲法の原型は平民社宣言にあった。9 条に繋がる非戦の心が弾圧された、そういう意味で大逆事件を見直してほしい。

幸徳らの“非戦論”は「非国民」とされ、「大逆」の家族は孫子まで迫害された。その様子は、NHK ETV 特集「埋もれた声 大逆事件から 100 年」に描かれている。動画→ http://bit.ly/evNF3A （11 頁に感想文あり）

中森明夫さん（作家）：

若い人に受け入れられるよう「アナーキー・イン・ザ・ＪＰ」を書いた。 http://bit.ly/ih59bH

大杉栄が、パンク少年シンジに憑依して復活した！

「インターネット」＝インターナショナル・ネットワークだと大感激し、「インターナショナル」を歌う。幸徳秋水が「百年後、だれか私に代わって言ってくれる者がでる」といったのはこれだ！

「大逆事件なう！」伊藤野枝は長澤まさみ

堀保子（大杉の内妻）は上戸彩

神近市子は沢尻エリカ

・ 真面目だけでは、時間の忘却の力に勝てない

大杉栄でブンガクッ http://bit.ly/hOjRnR

鎌田慧さん（ルポライター）：

幸徳秋水たちが日本の（アジアへの）膨張政策に一貫して反対の旗を掲げていて、彼らに関係する人たちが一網打尽に処刑された極めて単純明快なストーリー。背景は日露戦争から朝鮮併合に向かう間に国内（の反対勢力）を弾圧し尽くす狙い。現代でも彼らの掲げたヒューマニズムと反戦思想はもっともっと継承されていかなくてはならない。

管野スガは取り調べた検事に「そんな調べ方をしたら、命を失いますよ」と誘導取り調べを批判している。大逆事件から百年たっても日本の検察は、当時と同じように、過剰な権力をもって横暴を繰り返している。

立川反戦ビラ事件などをみると、思想検事がいて弾圧しているとしか思えない。民主化が最も遅れた司法界をどうするのか？ 戦後の民主化では変わらなかったが、百年目からは変えなくては。

▼（筆洗（TOKYO Web) 11/1/24）韓国を併合し、遅れてきた帝国主義国家が、戦争に反対する社会主義者たちを一網打尽にしようとしたこの事件は、決して教科書の中の世界ではない。証拠の改ざんや冤罪（えんざい）の多発など最近の検察の不祥事を見てもそれは明らかだろう▼当時の新聞は政府の発表をうのみにして、何の疑問を差し挟むことなく、刑死者をむち打った。新聞も自らの過ちを問い直さなくてはならない。

→http://3.ly/d72S

大岩川嫩（ふたば）さん「大逆事件の真実をあきらかにする会」世話人☆「大逆事件の生き字引」と言われる。

当会は大逆事件の唯一の生存者、坂本清馬と刑死した森近運平の妹、森近栄子らの再審請求（1961/1/18）にあたりその支援組織として結成された。「大逆事件の真実をあきらかにする会ニュース」は大逆事件と再審請求を知るための唯一のメディアであり基礎的資料の宝庫。「会」は「大逆事件 100 年」の年に当たり、その完全復刻版を作成した。http://bit.ly/hauUnq

大逆事件は法的には有罪のまま。関係者の市民的復権、名誉回復運動をしているが、権力側のみでなく一般人の偏見・差別からの回復も必要。“日本人の名誉回復”の問題ではないか。

大逆関係者は地方出身で最も良心的な若者層。実相は一部の学者しか知らなかったが、坂本清馬が四万十市の人だけに話していたものが地下水脈のように伝わっていった。神崎清が資料を集めて、戦後に本として出した。50 周年に研究者と被害者家族たちがひっそりと集まり、小さなパンフレットを作り再審請求をする。太田薫総評議長が 10 万円カンパしてくれた。

平沼騏一郎：「みんな死刑になってほしい。桂太郎に間違いないか?と聞かれた。恩赦のために事前に判事から主文を聞き、判決の連絡がくると即侍従長に上奏、翌日恩赦を発表した」（1953 年『改造』の「祖国へ」）

当時の知識人は違法なでっち上げだと知っていた。

● 石川啄木

「日本無政府主義者陰謀事件経過及び附帯現象」

「A LETTER FROM PRISON 幸徳秋水『陳述書』」

● 永井荷風「わたしは世の文学者とともに何もいわなかった。…良心の苦痛はたえられぬ…文学者たる事についてはなはだしき羞恥を感じた。以来わたしは自分の芸術の品位を江戸戯作者のなした程度まで引き下げるに如くはないと思案した」（「花火」1919 年）

● 徳冨蘆花の演説「謀叛論」1912 年～「‥幸徳君らは時の政府に謀叛人と見做されて殺された。諸君、謀叛を恐れてはならぬ。自ら謀反人となるを恐れてはならぬ。新しいものは常に謀叛である。‥‥恐るべきは霊魂の死である。」

● 三宅雪嶺は『太陽』で「逆徒」を書き発禁となった。

● 内田魯庵は処刑日に集まった人たちを克明に書き残した。草稿が国会図書館で発見された。

● 唯一の女性、管野（かんの）スガは性差別の偏見で誤解されてきた。この問題もあきらかにしたい。

女性革命家の姿 知って　管野須賀子 死後 100 年、実像の研究進む

「大逆事件」の女性運動家、管野須賀子は唯一の女性で、享年 29 歳。再評価の機運も高まる。「革命家」は、どんな女性だったか。

「男をたぶらかす『妖婦』や『毒婦』と呼ばれ、戦後も長らく、社会運動家としての役割が軽んじられた。再評価の動きは、最近のことです。」

追悼会を主催する市民団体「大逆事件の真実をあきらかにする会」事務局長で、明治大の山泉進副学長は…「国の発表が垂れ流され、悪者に仕立て上げられた。現代の冤罪の構造と同じ。その"劇場型"の事件で管野と幸徳の恋愛がやり玉に挙がった」と続ける。

大阪に生まれ、鉱山技師の父に連れられて各地を遍歴。十一歳で母を亡くし、継母に残酷な仕打ちを受けてつらい少女時代を過ごしたとされる。

十八歳で東京の商家に嫁いだが三年後に離婚。関西文壇の重鎮だった宇田川文海に師事し「大阪朝報」の新聞記者になり、次第に社会運動に引き寄せられていく。戸籍は「スガ」だが、新聞記事などでは「須賀子」で署名し、女性に選挙権がない時代に活躍した。

その後、和歌山の新聞社に赴任し、六歳年下の労働運動家荒畑寒村と知り合い結婚。戦後、衆院議員も務めた荒畑は二十歳ほどの若者で、間もなく結婚生活が破綻し別居したが、荒畑は赤旗事件に巻き込まれ、投獄される。荒畑の投獄中に幸徳と同居し、仲間らの非難を集めることになった。

「管野像」は戦後、八一年に九十三歳で亡くなった荒畑の目線を通して流布した。社会運動史の生きるカリスマは自伝などで「年増芸者が若い役者を弄んだようなもの」と愛憎半ばに論評し、世間に広がる「妖婦」の印象を後押ししていた。

だが熱心な研究者らの手で、管野の記事などが掘り起こされ、先駆的な社会運動家としての実像に迫る研究が進む。大逆事件で処刑や連座した人々の名誉を回復する動きが続くが、山泉氏は「百年を機に、非戦を唱えた幸徳や管野が何を考え、何を大切に思っていたかを検証することが必要ではないか」と話した。

（東京新聞　11/1/28　中山洋子記者）

▼**大岩川嫩**（おおいわかわふたば）『彷書月刊』2008/2

宿痾を抱えながら、困難な生活条件の中で、ひたすら向上と自立をめざして生き、たどり着いた社会主義・無政府主義の理想が強権のもとで踏みにじられたとき、「われとわがからだを敵に擲げつくる心」（啄木）をもって砕け散ったのが、管野須賀子であった。

今井弘道氏による論文「美くしとにもあらぬ－石川啄木と女性テロリスト群像」（二〇〇六年七月、「象」第 55 号）は、須賀子と秋水の人間関係こそ成熟した人間同士の恋愛であり、かつて彼女が『牟婁新報』記者時代に書いた「熱烈なる相愛の夫妻が、私するものとては、只相互の愛情のみにして、余力を挙げて社会のために捧げ、己が成すべきの務めを終わりたるの日、即ち、莞爾として相抱いて情死をなす……是れ妾の理想なり」を実現したものであった、とする。

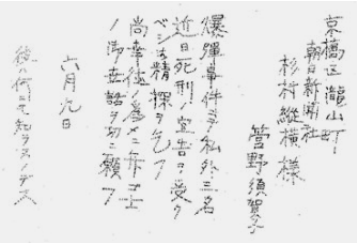
魔女伝説を克服しての管野須賀子理解はこうしてようやく深められつつある。

最近、鍋島高明著「秋水と三申－叛骨の友情譜」（二〇〇七年九月、高知新聞社）で明らかにされた、西園寺公望がずっと後年小泉三申に語ったという須賀子の印象を記しておこう。

「あなたの友人幸徳の仲間に女がいましたね。管野スガーその女だ、たずねてきたから駿河台の家の二階で逢ったことがある。美人ではなかったね、何の話であったか、よくは覚えないが、いやなことではなかった、静かによく話して行った」

この西園寺の談話には、「大逆」を犯した女への嫌悪感のようなものは少しもない。ただ一度会っただけの、そして貴顕淑女をはじめとする多くの女性を見てきた西園寺に「静かによく話して行った」という印象を永く残すような女性で、管野須賀子はあった。

★　管野スガの「針穴でつづった白紙の秘密書翰」



管野スガが幸徳秋水の救済を求め、獄中からひそかに送った書簡が、千葉県我孫子市で見つかった。当時の検閲を恐れ、書簡は何も書かれていない白い和紙に見えるが、針で細かい穴が開けられており、光にかざすと文字が浮かぶ。秋水の無罪を訴えている。

「爆弾事件にて私外三名近日死刑の宣告を受くべし　御精探を乞ふ　尚幸徳の為めに弁ご士の御世話を切に願ふ　六月九日　彼は何にも知らぬのです」

毎日新聞(10/1/29)　http://bit.ly/fuZewC
http://bit.ly/e6HuG3

参考：『管野須賀子の生涯』清水卯之介著 2002 年

安田好弘さん（弁護士）：

日本でなぜ死刑廃止ができないか。日本には他国にない、死刑廃止に反対する強力な政治的集団＝法務、検察がある。天皇制護持、自白強要手段確保のためだが、そのルーツはこの大逆事件にある。このデッチ上げで検察は大変な報酬を得た。検事総長の松室致と平沼騏一郎司法省民刑局長は異例の出世。

大逆事件を契機に裁判所構成法を変え、検事総長を司法大臣と大審院院長と同格にし、検察が圧倒的裁量権を獲得。検察が司法行政を支配するようになる。（判事中心であるべき司法が、検事が裁判を牛耳る世界に例を見ない体制）その地位は、敗戦によって変わることなく

現在も生きている。

法務省ではキャリアはせいぜい出世しても課長止まり。それ以上はすべて検察官が独占している。キャリアトップの検察事務次官は No5 ということになっているが、友人に言わせれば実質は No11 だ。法務検察行政は彼らの手の中に握られている。彼らの現在の優越的地位、利権は、大逆事件で死刑を政治的プロパガンダに使ったことの成果である。彼らは政治に口を出す。ある特捜部長は「額に汗して働く人たちが優遇される社会を作るのが検察だ」といったが、どんな社会を作るか決めるのは検察ではない。検察を司法行政から排除し、検察だけの仕事に専念させる必要がある。

……

平沼騏一郎は「予審は大審院でするのであるが、大審院判事では心もとない。そこで東京地方裁判所の鈴木喜三郎を通じて大審院に命令させ、潮道太郎を予審判事としてやらした」と自慢している。

（平沼騏一郎回顧録）

平沼騏一郎から続く検察の体質　http://bit.ly/i2Esvl

平沼騏一郎による政党政治潰し　http://bit.ly/ehq7dR

大逆事件 100 年で、いま考える「国家の欲望」

北村肇の「多角多面」　（週刊金曜日 11/1/28）

幸徳秋水ら 11 人がでっちあげの「明治天皇暗殺計画」により処刑されたのは、100 年前の 1911 年 1 月 24 日。翌日、管野スガ（須賀子）も死刑台の露と消えた。大日本帝国憲法下では、大逆罪の裁判は非公開が原則。だが、幸徳秋水ら 26 人に判決（24 人に死刑、2 人に有期刑）がおりた同月 18 日の公判は公開だった。桂太郎内閣にはみせしめの意図があったのだろう。

本誌今週号から始まった連載「残夢 大逆事件を生き抜いた男 坂本清馬の一生」で、著者の鎌田慧さんもそう指摘している。

この 1 世紀前の事件が語りかけてくるものは何か。私は、「国家の欲望」と「個人の欲望」がシンクロしたときのおぞましさを強烈に感じる。明治維新後、日本は異常な速度で帝国主義国家の仲間入りを目指す。そのために欠かせない「戦争」と「侵略」を遂行するには強圧的な国民統合が不可欠。時の政府は「天皇制」を不可侵とすることで、「反国家主義」勢力を弾圧した。まさに「国家の欲望」のもとで、市民の人権や自由を踏みにじったのだ。

しかし、現実に政策を推し進めるのは「個人」である。その「個人の欲望」は「国家の欲望を実現する」ことで充足する。カネや地位、名誉が中心になるのは言うまでもない。歴史は単純に繰り返さないが、こうした「国家の欲望」と「個人の欲望」のシンクロはいつでも起こりうる。本質的には大逆事件と同様の国家犯罪が絶えることはないのだ。

さて、2011 年のいま、国家が不可侵としているのは「日米同盟」である。米国との連帯を損なうことは、一種の不敬罪なのだ。そう考えれば、鳩山由紀夫首相の退陣も、小沢一郎氏の失脚も背景がぼんやり浮かんでくる。強引すぎることは承知の上だが、私には形を変えた大逆事件に見えてしまう。

ただし、100 年前と決定的に異なるのは、明治時代の「国家」は大日本帝国であり、21 世紀の「国家」は米国属国の日本ということだ。つまり、「国家の欲望」とは「米国の欲望」にほかならない。米国に尽くすことで「日本としての国家の欲望」を充足するという二重構造になっているのだ。当然、政治家、官僚、財界人の「個人の欲望」も複雑に歪んでいる。ただ、こちらはつまるところ「カネ、地位、名誉」に行き着く。

そして、一向に変わらないのがマスコミだ。「小沢報道」も「普天間基地報道」も大逆事件報道に通底する。「権力の意向を忖度する」姿勢が垣間見られるからだ。大逆事件判決後、法廷では多くの被告が「無政府党万歳」と叫んだ。『朝日新聞』は翌日の紙面で、「何処までも不謹慎な彼等かな」と報じたという。　■

http://bit.ly/dRgr5p

「坂の上の雲」ではない、もう一つの明治があった

日露開戦論に転じた萬朝報を「非戦論」の幸徳秋水、堺利彦、内村鑑三が退社。(1903 年)

★「小生は日露開戦に同意することを以て日本の滅亡に同意すること〻確信致し候。」内村鑑三

★平民社宣言は日本国憲法の原点

1903/11　幸徳秋水、堺利彦、「平民社」を興す。週刊平民新聞を発行

「枯川（堺利彦）の社会主義は趣味七分に理論三分、秋水の社会主義は理論六分に趣味四分。枯川は好人物にして真面目、秋水は真面目にして好人物。秋水は神経質、枯川は多血質。」

幸徳秋水の非戦論

▼「吾人は朝鮮人民の自由、独立、自治の権利を尊重し之に対する帝国主義的政策は万国平民階級共通の利益に反対するものと認む、故に日本政府は朝鮮の独立を保証すべき言責に忠実ならんことを望む」

（『大阪平民新聞』 5 号 1907/7 ）

▼ 人間と人間が喧嘩することが悪事ならば、国と国が喧嘩する戦争も亦悪いことであるに相違ない。百姓と労働者の子が死んだり、あらゆる税と名のつくものは凡て高くなる。

▼ 吾人は飽くまで戦争を非認す..世界を挙げて軍備を撤去し、戦争を禁絶するの急要なるは然り、吾人が大に戦争防止を絶叫すべきの時は来れり。之が防止を絶叫せざる可からず。呼我愛する同胞、今に於て其本に反れ、其狂熱より醒めよ...次で来る者は必ず無限の苦痛と悔恨ならん (平民新聞 第 10 号 1904/1)

▼ ああ、増税…『戦争のため』という一語は有力な麻酔剤、六千餘万円の苛税は忽ち吾人の頭上に課せらる、曲筆舞文、競うて無邪気なる一般国民を煽動教唆せるの為めにあらずや (1904/3)

- 君死にたまふことなかれ（与謝野晶子）
- お百度詣　大塚楠緒子（太陽 1905 年）

ひとあし踏みて夫（つま）思ひ、
ふたあし国を思へども、
三足ふたゝび夫おもふ、
女心に咎ありや。
　　～～
かくて御国と我夫と
いづれ重しととはれれば
たゞ答へずに泣かんのみ
お百度まうであゝ咎ありや

★ そして大逆事件がでっちあげられた
「被告は死刑にしたが、中に 3 人陰謀に参与したかどうか判らぬのがゐる。死刑を言渡さねばならぬが、ひどいと云う感じを有ってゐた。」
（平沼騏一郎回顧録）

- 翌年「特高」を設置

★ 大逆事件の種がまかれた、そして発芽したものは
1910.12　堺利彦 売文社を開業。「冬の時代」
「パンとペン 社会主義者・堺利彦と『売文社』の闘い」
　　黒岩比佐子（講談社）
　　不屈の“大正版忠臣蔵”
　　夏目漱石から松本清張まで意外な接点。
　　「明治社会主義者」群像を肉感的に描く。
石川啄木「時代閉塞の現状―自己分裂のいたましき悲劇」
佐藤春夫「愚者の死」「日本人ならざる者」
与謝野鉄幹　「誠之助の死」
中里介山　「高野の義人」特権階級化した「明治」に絶望
1911・3　堺、大逆事件慰問の旅
　大杉栄「春 3 月 縊り残され 花に舞う」
　堺利彦「行春の 若葉の底に 生残る」
1911・9　平塚らいてうら「青鞜」発行
　与謝野晶子「山の動く日来る
　　すべて眠りし女今ぞ目覚めて動くなる」
1912　大正始まる。大正ロマン。竹久夢二「宵待草」
　「待てど暮らせど来ぬ人を 宵待草のやるせなさ」
1916　大正デモクラシー。吉野作造の民本主義。
1922　水平社宣言「人の世に熱あれ、人間に光あれ」
1946　日本国憲法　　（参考　院内集会レジュメ）

院内集会 リレートーク から

●**辻本雄一**さん 佐藤春夫記念館館長(和歌山県新宮市)
新宮からの犠牲者 6 名の顕彰碑を作った。（2003 年）

市議会で顕彰の決議。中上健次と熊野大学を作った。
健次は勝訴はもう無理、彼らの志を継ぐと。
昨年 6 月「大逆事件 100 年」フォーラム in 新宮
「闇を翔る希望」をやり 600 名集まった。名誉市民は色々な問題があるが次世代に語り継ぐためにやる。
大逆事件と大石誠之助 http://bit.ly/hZxBNP

● 新宿富久町中町会のみなさん。（会長 玉置さん）
毎年「刑死者」のための御供養とお祭りをしている。
最近は結構「名所」になり、参拝者も多い。

（鎌田慧）東京監獄跡の児童公園の片隅に、「刑死者慰霊塔」が建っている。木造アパートの窓の真下で、頭の上にメリヤスの股引などがぶら下がっている。坂本清馬などの大逆事件の再審請求を担当した森長英三郎さんと、日弁連が協力して四十七年前に建てられた。
この碑は、でっちあげで死刑にされた幸徳たちばかりでなく、監獄で刑死した二百九十人すべての人たちの慰霊塔になっている。年に一回、町会の人たちが、慰霊祭を行っている。涙ぐましい、優しい行為だが、その町会の人たちも集会に参加して下さった。

● **藤原智子**さん（映画監督）：
大杉栄と伊藤野枝との遺児ルイズの生涯を描くドキュメンタリー映画「ルイズその旅立ち」をつくった。
ドレフュス事件と時代が近くその視点も持ちたい。

● **木村まき**さん（横浜事件第三次再審請求人）
木村亨(横浜事件被害者)は新宮出身。大石誠之助について、祖母の「貧しい人からはお金を取らない。あんないいお医者さんが、どうして殺されなければならなかったのか」という嘆きを聞いて育った。
（「病人は幸徳さまとソッと云い」）
木村は再審に勝って日本人の人間宣言にしたいと言っていた。辻本さんの、顕彰碑建立のお話「志を継ぐ」ということばに感銘を受けた。犠牲者たちは平和、博愛、人権の先覚者であったと思う。

● **クリスティン・レヴィ**さん　日仏会館
（幸徳秋水「帝国主義論」のフランス語訳者）
1/30 日仏春秋講座：「大逆(幸徳)事件とドレフュス事件：事件の歴史的意味と民主主義的課題」を開催。
http://3.ly/nywG

1910 年の「幸徳事件」を目の当たりにした日本の作家や知識人たち ―たとえば永井荷風―は、近過去としてフランスのドレフュス事件（1894-1906 年）を脳裏に蘇らせた。幸徳秋水自身、すでに『廿世紀之怪物帝国主義』（1901 年）のなかでドレフュス事件に言及し、社会における軍部の影響力の増大に警鐘を鳴らしている。その際、彼は、軍部の台頭と言論の抑圧のあいだ

に不可避の関連性を見ながら、日本国民がそのような軍主導の国を願わしいとする謂われはどこにもないとの信念を述べたのであったが、事後的には、それがまさしく逆夢であったことが判明するわけである。

百年前の 1911 年 1 月、大逆（幸徳）事件に連座して処刑された 12 名の社会活動家たちの記憶を、今、新たにすべく、それを―むろん事件の生起と結末においてかなりの相異を見せた―フランスのドレフュス事件の記憶に重ね合わせ、それぞれの事件のなかで、そしてその後 100 年の歴史を通して、擁護、顕揚、死守されてきた人間の諸価値を交差させて考察することにより、それぞれの歴史的意義と思想的パラダイムをよりよく浮かび上がらせることができるのではないか。

フランスではドレフュス事件によってインテリが生まれたといわれている。インテリとは被抑圧者のことを考える人。中国北支戦争の時、萬朝報で非戦と軍人の悪逆を訴えた。山縣有朋の敵になり死刑にされなければならない人物となった。平民新聞で非戦論陣を張ったことも強調したい。(当時、幸徳秋水らの処刑を知り、フランスでは大規模な抗議行動があった)

● **大杉豊**さん（大杉栄の甥御さん）

大杉栄は、父が鶴見に避難したところを見舞いに行った帰りに殺された。大逆事件は法によって殺され、大杉は陸軍によって殺された。「赤旗事件」で堺利彦と 2 年獄中にいたために大逆事件の難からは逃れた。

● **中村文雄**さん

（「大逆事件と知識人」著者）

天皇制の問題が深い。司法省の実権を持っていたのは検事で、やりたい放題であり、現在と同じ。大逆事件を弁護した今村力三郎弁護士は『法廷五十年』で天皇擁護ではあるが徳富蘆花と同じ論法で国家権力を批判している。検事たちは 1911 年 3 月にボーナスを貰い、司法官僚になっていく。現在でもそうだが検事の不法を訴えるところがない。秋水が遺産として陳弁書を書いていて、検事の実態がわかる。

天皇制が引き起こした恐るべき事件と理解したい。

参考：横浜事件全国ネット http://bit.ly/hBxmWb

「大逆事件」と検察の暴走（毎日）http://bit.ly/g71xiB

大逆事件 幸徳秋水刑死 100 年 墓前祭

高知・四万十市（11/1/24）

多数報道されているが SIMANTO114 残日録様から http://bit.ly/simanto 一部引用させて頂きました。

田中全 市長 追悼のことば

幸徳秋水先生の刑死百周年墓前祭にあたり、謹んで追悼のことばを捧げます。母なる四万十川に代表される美しい自然に囲まれ、京都の文化を受け継ぐ人情こまやかな町、中村に生を受けた先生は、明治の世にあって、優れたジャーナリストとして、また自由・平等・博愛を真髄とする思想家として、そして国民大衆の基本的人権の確立をめざす社会主義運動の指導者として活躍をされました。

先生が生きた明治とはどういう時代であったのでしょうか。いま小説「坂の上の雲」がテレビドラマで放映されている中、あらためて問い直されています。

幕末・維新を経て、日本という国家や日本人という国民が形成される途上にあったのが明治であります。欧米諸国に追いつくため目覚しいスピードで近代化を進めていきました。近代化は文明開化であります。人々は新しい文明を享受する生活に大きく変わりました。しかし、近代化は一方で人々の平穏な暮らしを犠牲に肥大化していく富国強兵、軍事国家への道でもありました。

先生はそういう国家にたいして、いち早く警鐘を乱打されました。日露戦争においては、勇気をもって声高く非戦論を唱えられました。

「われわれは絶対に戦争を否認する。
これを道徳の立場から見れは、おそろしい罪悪である。
これを政治の立場から見れは、おそろしい害毒である。
これを経済の立場から見れは、おそろしい損失である。
社会の正義は、これがために破壊され、万民の利益と幸福とは、これがためにふみにじられる。」

ロシアでもトルストイが同様の主張を行いました。戦争に公然と反対する主張は世界の歴史上初めてのことであり、ともに人類の進歩、英知を示す画期的な出来事でありました。先生が時代の先覚者といわれる所以であります。

しかし、先生の訴えられる非戦平和、自由平等の思想の広がりを恐れた明治政府は、世にいう大逆事件をつくりあげ、先生はその犠牲者として東京市ヶ谷刑場で悲しくも露と消えられました。

あの憎むべき弾圧事件がなく、先生が天寿をまっとうされていたとすれば、その後の日本の歴史が大きく変わっていたであろうことを思う時、悔やみても余りあるものがあります。

先生は死刑宣告をされたあと、『事ここに至っては何をか言わんやです。また、言おうとしても、言うべき自由がないのです。思うに、百年ののち、だれか私に代わって言ってくれる者があるだろう」との言葉を残されています。

先生、今日その百年の日を迎えました。

先生亡きあと、日本は軍事国家の道をひた走り、先生が予想をされた通り、ついにアメリカと開戦。国は焦土と化し、国民は塗炭の苦しみを味わいました。

しかし、先生の主張はこの間も地下水となって脈々として受け継がれ、戦後の日本国憲法として花開きました。戦争放棄をうたった世界に誇る平和憲法であります。

男女平等も実現し、基本的人権が保障されています。
1983 年には、先生の絶筆となりました漢詩を刻んだ記念碑を中村の町が一望できる為松公園に建立しております。20 世紀最後の年 2000 年には、中村市議会は先生の名誉を回復し、偉業を讃える「幸徳秋水を顕彰する決議」を全会一致で行いました。

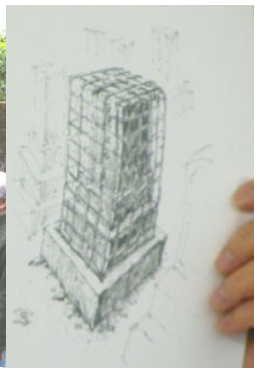
今年は、先生刑死百周年の記念すべき年にあたり、私たちは先生と同じ歴史や風土、文化を受け継ぐ者として、あらためて先生の業績や思想を年間を通じて論じあい、学びあってまいりたいと考えております。

いまの日本や世界の現実をみると、先生の求められた真の自由・平等・博愛の世界にはまだ道半ばかもしれません。四万十市では、このほど世界に向けて、四万十市非核平和都市宣言を発しました。先生の志を受け継ぎ、先生の望まれた自由・平等・博愛の世界の実現に向けて取り組んでまいることをお誓いし、最後にその決意を込め、ここに宣言文を朗読して、先生へのご報告と追悼のことばにさせていただきます。

四万十市非核平和都市宣言

私たちの願いは　全世界が平和であること
すべてのひとが幸せであること
私たちはこの地球上からなくしたい
憎しみを生む暴力を　命を奪う戦争を
すべてを破壊する核兵器を
二度と繰り返さない
ヒロシマ・ナガサキの悲惨な歴史
私たちは誓う　核のない平和な未来

四万十市民はこの思いを世界に訴え
非核平和都市を宣言する　2011 年 1 月 24 日
幸徳秋水刑死百周年記念事業実行委員会委員長 田中全



岐阜県中津川市の笠木透さん(73)とバンド「笠木透と雑花塾」が、墓前での献歌「あなたは無罪だ。国が間違っていた。そんなポスターを世界に貼ろう」を熱唱した。また前夜には、高知市出身の北野辰一さんが座長を務める劇団「北辰旅団」（兵庫県西宮市）も大逆事件をテーマにした演劇「大逆百年ノ孤独」を披露した。

歌も演劇もすばらしいものでした。ただ一点注文をつけておきたい。写真で塀の上に立つ 人物の足が見えるでしょう。マスコミ関係者ですが、狭い墓地の中を人に突き当たっても謝罪もせず、塀の上に上る。果ては墓の上にまで足をかける姿には、愕然としました。もう少し、マスコミはマナーを心得てもらいたいものである。

夜は懇親会も行われた。戦時中、幸徳秋水の墓には、このように鉄の柵で囲われていたとの笑い話のような証言も飛び出した。
（市民から「１センチほどの鉄線で囲われた墓があったと母親から聞いたことがある」との証言があった）
権力が正論を唱えるものに対して、いかに神経を使っていたかを示すものだろうと思います。
（SIMANTO114 残日録）

大逆事件テーマの歌つくり CD に 没後 100 周年に

信濃毎日(1/9)→http://3.ly/mp3S

大逆事件をテーマに、フォーク歌手の笠木透さん＝中津川市＝と仲間の鈴木幹夫さん＝松本市＝がフォークソングを作った。今年は処刑された幸徳ら 12 人の没後 100 周年。笠木さんは「事件は戦争に向かっていった国家による弾圧。国の過ちを若い人にも伝えていきたい」と訴えている。

大逆事件をテーマにした歌は４曲。笠木さんは長年、反戦などをテーマにコンサートを開き、30 年ほど前から事件について調べている。高知県四万十市内にある幸徳の墓や安曇野市内の「爆弾実験」跡地も訪れた。作詞した歌「ポスター」では、日露戦争に反対した幸徳の無罪を訴え、「世界中の街角に（無罪を訴える）ポスターを張ってほしい」と呼び掛けている。

鈴木さんは、処刑された大石誠之助らの出身地和歌山県新宮市と隣接する三重県紀宝町出身。子どものころに「大石は悪い医者だった」といわれ、地元で事件はタブー視されていたという。「故郷や松本では事件について知らない人が多く、歌で伝えなくてはならないと感じた」といい、爆弾実験をしたとされる国営明科製材所の職工宮下太吉と大石をテーマにした歌を昨春作詞した。

「ポスター」 作詞：笠木透 作曲：佐藤正剛

♪国が間違っていました
幸徳秋水さんあなたは無罪です
2011 年 1 月 24 日 日本国
世界中の街角にポスターを貼ってほしい
1．あなたは天皇制に反対した
国の主人公は人民なんだからと 共和国を夢見ていた
あなたは日露戦争に反対した
自国のために他国をおかす　それが愛国心なのか
2．つづきは→http://bit.ly/giEONW

非戦論 秋水「復権の輪」

没後 100 年墓前祭に 250 人:

参列した高知市出身の大学非常勤講師くずめよしさん（福岡県）は「この正月に県外の知人から 100 年と聞かされ、知らなかったことが恥ずかしくて反省の思いで来た。広く世界のことを考えた素晴らしい人。郷土の先人の偉業をもっと知らなければ」。

地元の「幸徳秋水を顕彰する会」の久保知章さんは、秋水の無実を信じて生きた母や親類らの長い苦しみを

おもんばかりながら「復権を願う機運がやっと高まってきた。輪を広げていくべき」と力を込めた。

23 日夜は、「大逆事件の真実を明らかにする会」事務局長の山泉進・明治大副学長が約 300 人を前に講演。秋水らの検挙は「思想的な弾圧だった」と裁判の不当性を訴え、「秋水が何を考えていたか、検証をする必要がある」と再評価を呼びかけた。坂本清馬（1885～1975）の活動や、2000 年に秋水を顕彰する決議を市議会がしたことなどを挙げ、「同情でなく、不正を追及し、人権意識の大切さをあの事件から学ぶべきだ」と話した。

兵庫県の劇団「芸術交響空間北辰旅団」が、秋水の生涯を描いた「大逆百年ノ孤独」を上演。
ラストシーンでは涙ぐむお年寄りの姿も見られた。

読売新聞（11/1/25）

「埋もれた声―大逆事件から 100 年」をみて

（NHK 教育 ETV 特集 2010/8/22 日放送）
http://bit.ly/evNF3A　NHK 問題を考える会（兵庫）T.M

中国、朝鮮で植民地政策に走り、国内では朝鮮人民の自由・平等を求める社会主義者の弾圧が横行していた時代である。大逆事件は余り詳しく知られていないが、和歌山県新宮市では最も多い 6 人もの市民が逮捕起訴され死刑判決をうけた。50 年前に再審請求をしたが最高裁は「証拠不充分」として認めていない。が、後に研究者により国家の社会主義者に対する思想弾圧であり、冤罪であることが明らかになった。しかし近年まで遺族のみではなく新宮市民も「逆賊を生んだ市の住民」として戦後も負い目を感じて長い間苦しんできた。

NHK はこの特集で 100 年たってやっと遺族を始めとする市民が、歴史の中に埋もれた声をあげ始めた、この経過を追っている。
2001 年「大逆事件の犠牲者を顕彰する会」が発足し、市議会は名誉回復宣言を決議した。このことが契機になり今年の 6 月には市民フォーラムが開かれ、「大逆事件とはいったいなんだったのかを再度学び続けること」の重要さを確認している。

その上で 2011 年死刑 100 年を機に名誉市民にしようという声も上がっている。新宮市ではこのような市民と行政がともに過去の歴史を明らかにしていくなかで、遺族や関係者が声をあげはじめている。遺族の方々は「逆賊の子」としていじめられ、就職も出来ず、何回も引越しを続けられたことを口を揃えて証言。

過日この地を訪れ、個人で関係資料を収集し、開設している峯尾節堂資料館にいって来た。
館長の正木氏は設立趣意書の中で「裁判所はこの判決の誤りを認めず、また政府もこのことに反省の言なく、学校での歴史教育で取り上げられることは極めてまれであった。（略）　関係の資料を揃え、国民のみなさんにご覧頂き、多くの国民の犠牲の上に獲得した日本国憲法の方向に、日本国をさらに発展させる一助になれば、と願う次第」と記しておられる。

今回の放送は、「大逆事件」は過去の事件ではなく、今なお国家の権力により罪のない者が裁かれ、そのことで多くの家族が差別を受けるという構造はなくなってはいないことをあらためて考えさせられた。また、「大逆事件資料館」の公的な開設も望まれる。散逸した資料を集め、閲覧に供することもこの事件を正しく学ぶためにも早急に望まれる。（「兵庫」ニュース 17 号より）

●「埋もれた声 大逆事件から 100 年」をみて

和歌山県・新宮を中心とする大逆事件の現在に至る「埋もれた声」を盛り込み、大逆事件の実相を知らせてくれた、優れた内容だったと思います。

貧困や部落問題に関わり、民衆からの支持を得ていた医師大石誠之助を中心とする僧、新聞記者ら 6 人は韓国併合を前に、軍国化を進めている時の政府は危険と感じ、大逆罪の最初の適用、その中に犠牲となったのでしょう。

以後、国賊の家族として、地域から最近まで疎外、迫害されてきた彼らの子、孫たちのたどった様子が克明につづられていました。しかし、最近やっと復権、顕彰する動きが出て、救われました。それにしても政府による犯罪です。再審も受け付けないことに怒りを覚えました。そして、この特集を取組んだ NHK に拍手を。

投稿：中村 孝（会員）

NHK ドラマ『坂の上の雲』の歴史認識を問う

緊急講演会　2010/12/17　(京都民報)
中塚明 氏（奈良女子大名誉教授）

「坂の上の雲」は明治の日本を無垢でいじらしい「少年の国」として、「日露戦争は祖国防衛戦争」「フェアで真っ直ぐな戦争」と描いているが、日清戦争、日露戦争とはどんな戦争だったのか？

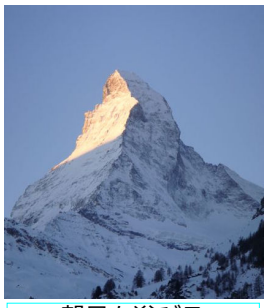
「宣戦の詔勅」によると、「朝鮮独立のため」「韓国の保全＝日本の国利のため」とあり、「朝鮮を日本が独占的に支配する戦争」だったことがわかる。

司馬が朝鮮のことを書く『手法』は「朝鮮が衰亡した原因は自主的に自国を変える力がまったくない国」と描く。当時の日本の公言できない蛮行と朝鮮の民族的動き、つまり「1894 年 7 月朝鮮王宮占領」「1894 年秋からの東学農民軍主力の大民族闘争」等々、1910 年朝鮮併合に至る歴史を無視し、司馬は天皇制下の日本の「朝鮮の見方」から一歩も出ていない。

司馬は朝鮮のことはほとんど具体的に書いていない。NHK も朝鮮の事を何ら調べていない。我々自身も、どう『明治栄光論』『平和主義者とする伊藤博文論』などの弱点を克服していくかが重要である。
http://bit.ly/hX5MPv　■

マッターホルン直下で氷河滑走!

投稿：木村 哲（会員）



朝日を浴びる
マッターホルン

当方、昨年高齢者の仲間入りをし、アクティブな活動の出来る時間も残りが少ないと思うこの頃ですが、菅内閣の改造、ＮＨＫ会長選びなどが報道された今年
１月中旬、スイス ツェルマットへのスキーツアーに行ってきました。
日本を出て帰国まで９日間、現地でのスキーは中６日、初めの 4 日間はツアー会社のガイドの案内で滑り、残り 2 日間は自由滑走という日程。

ツェルマットといえばあの名峰マッターホルンの麓で標高は 1600 ㍍。ガソリン車の乗り入れは許されず、街中では電気タクシーや馬車が活躍。今回の飛行機は成田から 12 時間以上掛けてミラノに行き、その後 3 時間半バスに揺られターシュという駅で電車に乗り換えツェルマットに入りました。ホテルに着いたのは現地時間の深夜 24 時。自宅を出て丸一日（23 時間）が経過したことになります。しかし翌朝、時差のため 4 時間ほどで目が覚めてしまいました。外は朝 7 時過ぎまで暗いのに･･･。

近隣の主なスキーエリアは、スネガ・ロットホルン、ゴルナグラート、クラインマッターホルン、それにイタリア側のチェルビニア、バルトルナンシュです。いずれのエリアも登山鉄道、地下ケーブルカー、ゴンドラ、ロープウェーなどで移動可能。幸い積雪もあったので帰りにはホテル近くまでスキーで滑走。因みにクラインマッターホルン山頂駅の標高は 3883 ㍍ですから、そこからバルトルナンシュやツェルマットに滑り降りると、その標高差はなんと 2200～2300 ㍍、滑走距離は 15～17 ㌔にもなります。このスケールですから、一日に滑るのは精々2本というところでした。

午後の空、珍しい四重のレンズ雲

初日は、ツアー参加者全員（30 名）が登山電車に約 30 分乗り、ゴルナグラートでまで行き、そこで自己申告の「足前」や「気力」により、ガツガツ班、まあまあ班、ユックリ班の三つの班に別れました。いよいよ滑走開始。私のガツガツ班の昼食は、往年の名スキーヤー、ツルブリッケンの奥様の実家である山小屋レストランでした。ジャガ芋とチーズのスイス名物、ロシティーやチーズフォンデューで舌鼓。美味しかった。

二日目、三日目は、天候にも恵まれパスポートを持参しイタリア側で滑走。スイス側に比べてゲレンデが広く、前日の天候が悪く閉鎖されていたのでフカフカの新雪も沢山あり、整地された広いゲレンデでのスピード スキーも存分に堪能。晴天でモンテローザやモンブランなどの山々がハッキリ見えカメラに収めました。チェルビニアの街では、夜の酒盛りに備え、生ハムとチーズを購入。４ユーロでビックリするほど沢山あり味も満足。
四日目は、それまでのガツガツ班からユックリ班に転向、スネガエリアで一日ノンビリ滑り、五日目は一緒にツアーに参加した身内の 5 人で気ままな自由滑走を楽しみました。

最終日★山岳ガイドツアー

ツェルマットエキスパートウィーク最終日は、日本で事前予約した、山岳ガイドと滑るオプションツアー。山岳ガイド先導のもと規制ロープをくぐり抜け、それまで行きたくても行けなかった氷河上でのスキーを楽しみました。

マッターホルン直下①

氷河スキーといえば、フランス・シャモニー、イタリア・アオスタでのバレーブランシュ滑走が有名ですが、ツェルマットエリアで滑る山岳ガイド氷河スキーでは、それ以上にスキー技術、体力が必要といわれています。

今回は、そんな強者が 15 名いました。
前日までの気温上昇と強風のため雪はクラスト状態の非常に難しい、体力も必要になる難コンディション。最初は全員でクレバスなどがなく危険度の低いコースで足慣らしを兼ねて滑走。足慣らしといえども、途中マッターホルン直下の氷穴探検（写真①②）も含め約 1 時間。その後、ガイドの判断で、10 名がテオドール氷河･ゴルナード氷河の滑走へ。当ツアーはこれまで積雪や天候などの条件が整わず、今回が今シーズン初の催行だといいます。各自、無線ビーコンとハーネスを装着すると気分は高揚します。

テオドール氷河滑走は、クレバスの危険から先導するガイドの滑るトラックを絶対外れないよう注意されて出発。途中、フカフカの新雪で広いスロープが二箇所あり、そこでは先行者のシュプールの隣 1 ㍍以内を自分の持分として順番に滑り、参加者全員が新雪滑走を堪能（写真③）。
その後のゴルナード氷河では、積雪量がまだ安定していない今の時期、岩の間の狭いコース取りの関係でかなりのスキー技術が必要でした。途中、何人かは転倒しましたが、全員怪我もなく無事にツアーを終了。
シーハイル！！

氷穴 ②

12 本のシュプール ③